

平成26年度

学校だより

第39号

2015年 2月21日

ヒューストン日本語補習校

海外子女文芸作品コンクール

左の短歌は、このコンクールでの短歌部門優秀賞受賞した仙石快斗君の作品です。下の武智愛綾さんの作文も優秀賞を受賞しました。

どちらも海外で暮らしている中で素直な感性やその子なりのものの見方が表れています。入賞おめでとー！



アメリカのからてきょうしつ一二三

日本ご聞けてうれしいオッス！

ヒューストン日本語補習校

小学二年A組

仙石快斗

虹色の言葉

ヒューストン日本語補習校

中学1年A組 武智愛綾

私は2013年7月31日にアメリカテキサス州ヒューストンに引っ越して来ました。なにもかも一からのスタートで、英語を理解するのは大変でしたが、今では友達と仲良く会話できるようになりました。私は友達と会話する中で多くの違いを見つけました。中でも一番日本とアメリカに大きな違いを感じたのは「言葉」です。英語や中国語のような「語」ではありません。「使い方」また「表し方」です。

まず、私が気づいたことは、アメリカ人は日本人があたり前でしたことにもすぐ大袈裟と言ってもいいぐらいの感情を持ち、それを態度に表すということです。例えば、ある女の子が筆箱を落としたときに、拾ってあげると、「サンキュー」と言ってくれます。これは日本でもあたり前です。では、これだどうでしょう。私にはとても仲の良い友達があります。彼女は毎日「いつも私とお話してくれてありがとう。」と言ってくれます。これは日本ではあまりありません。しかし、「ありがとう」と言われて気を悪くする人はいないと思います。英語で「ありがとう」は「サンキュー」しかありません。でも、それは良い事だと思います。なぜな

ら、日本人は「ありがとう」を言うとき「どうも」と言ってお礼を言ったつもりになる人がいるからです。そういう所を比べると、アメリカ人のように、「ありがとう」とたくさん言う方が大袈裟と言うより、感謝やお礼の気持ちがさらに伝わるのではないのでしょうか。

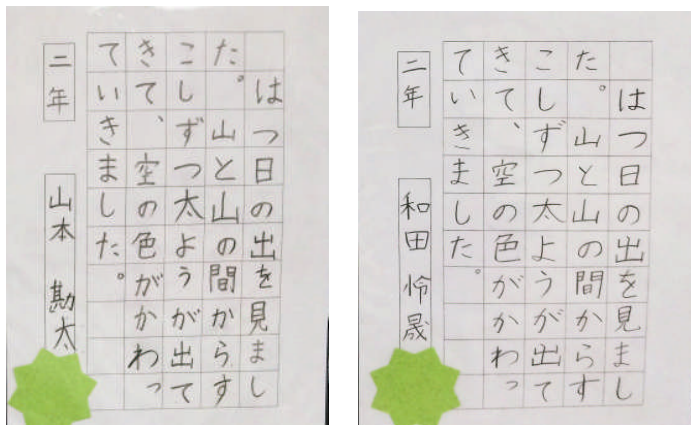
次に言葉の次は使い方です。

アメリカ人は自分の思った事、考えたこと、感じたことを、すぐに言うところがあります。これは、クセというより習慣で普通な事です。私はこんな出来事に会いました。ある友達と会話をしていた時のことです。私は友達に色々なことを話します。すると、友達は、「あ、それ〇〇じゃない？」とか「あなたの言葉の使い方は間違っているわ。」などの受け取る人の気持ちも考えずになんでも球のように飛ばしてきます。しかし、日本人だとそういったことは一切口にしません。でも、それが日本人の長所であり、また、短所でもあります。例えばある人は自分の好まない物に対してでも、「これ、超カワイイ。」と、言ったりします。アメリカ人なら誰に対しても「私はそう思わない。」とはっきり言います。日本人だと自分の気持ちをはっきり言う人はまずいないでしょう。だから、大がいの場合その意見に対して賛成という声が多く上がります。私も実際そうでした。何も言えずただだまって見聞きし賛成するだけでした。するとしっくりこない気持ちが残り、あまり良い気分になりません。ですが、言わないというのも実はいい事です。なぜなら何でも正直に言いつぎると、相手の心を深くきずつけてしまうからです。アメリカ人の考え方は日本人とは逆にあたります。アメリカでは何でも正直に言うのが習慣で、日本では言う時、言わない時があるというのが習慣だと思います。

日本で目上の人と会話することがある時、日本人は敬語を使います。

日本人が敬語を使う時は主に、両親にだったり、会社の先輩にだったり、自分より目上の人に対して使うことが多いです。しかし、英語には敬語は存在しません。仮にいていねい語が存在しても日本の敬語とは、全く別のもので、日本の敬語は心のていねいさも出るのです。例えばあなたが〇×△会社の社員で今日はお昼から社長と面会をする予定があるとします。社長との会話の中で「こうだよ」と言うのと「～ですね」と言うのでは全く違います。社長は自分から見たら目上の人なのに友達のように接し、会話することは日本では大変失礼なことなのであり得ません。アメリカだとていねい語は使うけれど、日本のような敬語はないので、アメリカ人が日本に来たら不思議に思うかもしれません。それに、アメリカでは相手の事を名前

冬の硬筆展より - 優秀賞作品紹介 その2 -



年賀状展より~その3



[今後の予定]

- 2/21 PTAクラス委員会
- 2/28 職員会議
- 3/7 学校文集第39号発行 入園・入学面接(二次)
- 3/14 卒園・卒業式 職員会議

学籍
 在籍数 (2月21日現在) 451名
 幼42名 小309名 中69名 高31名

Japanese Language Supplementary School of Houston
 12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077
 Tel.281-531-6743 / Fax.281-531-6795 (事務局 火~金曜日)
 Tel.Fax 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)
 E-mail: jlssh@jeihouston.org
 Home Page: www.jeihouston.org
 (文責 : 校長 山崎弘光)

✓ で呼び合います。日本だとお父さん、お母さん、パパ、ママや、名前の後に「さん」や「君」「ちゃん」をつけます。しかしアメリカでは名前で、それも呼び捨てです。先生の場合は、ミスターやミスをつけますが、やはり名前です。これもアメリカの文化であり習慣です。日本ではあり得ないような事も、アメリカではあり得ますし、逆にアメリカであり得ないことでも日本ではあり得るのです。もしかしたら、他の国々で比べると、また異なったことや、共通する部分が出てくるかもしれません。

思いがけない引越で、アメリカと日本の「言葉」を比べることができ、違った視点から見ることでまたさらに視野が広がったと思います。また、私は他の国のことも調べたいと、新たな目標を持つこともできました。

最後にこの作文を書いて思い、学習したことは、アメリカにも、日本にも、よい言葉の使い方、表現のしかたがあり、世界の国々にもあるのだろうということです。世界の国にはいろいろな「語」がありますが、「言葉」というのは世界にたった一つしかない存在なのだという事を学習し、心に刻みました。そして、私がおもったことしたらいいなと思う事は日本にはまず、「ありがとう」を取り戻してほしいということです。「どうも」ではなく、笑顔で「ありがとう」とみんなが言えたらいいです。アメリカでは、日本のような敬語をうみだして、広め、日本のように相手に気づかいができたらいなと思います。

そして、日本とアメリカ、いや、世界の国全ての人達が、相手の気持ちを考えて、言葉の選択をし、自分の意見をはっきり言えたらいいなと思います。私はこのことを実現させ、世界中がいい言葉であふれてほしいです。そのために、私は日本に「ありがとう」という言葉を戻して心の温かさを一人一人に知ってもらいたいし、アメリカには日本のような敬語を伝え日本を見習ってもらいたいです。そして、相手を思う優しさを広げたいと思います。私はいっぺんにこの三つの事をやりとげるのではなく、まず今、自分にはできそうな身近なことを、コツコツとしてきたいと思っています。そして、全てを終えた時には、虹色の「言葉の掛橋」を完成させたいです。

(上記掲載作品は、短歌・作文ともに「第35回海外子女文芸作品コンクール入賞作品集」より)

◆パトロール当番予定表 2月28日◆

これは2月当番一覧表に記載された予定です。変更の場合はこの表とは異なりますのでご注意ください。

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1	リーダー	小5	39 小林 瑞季
	2		42 山下 翔
	3	小6	2 村上 葉月
	4		3 横地 遥
	5		4 村田 萌歌
	6		5 宮内 英士
	7		6 岩原 果奈
★PM1	リーダー	小6	7 片山 溜南
	2		8 水野 妃織
	3		9 高橋 拓夢
	4		10 塚谷 朋香
	5		11 甲斐 水葵
	6		12 松本 洋輔
	7		13 吉田 志織